

豊饒な干潟の再生をめざして ～ 広島県東部アサリ協議会（浦島地区）～



浦島地区について

浦島地区は、尾道市の南東部の浦崎町と百島町にあります。地区の産業は、農業や漁業が盛んで、漁業はアサリや刺網、小型定置漁業などが営まれています。

地区の海岸線には、国や県が造成した人工干潟が複数あるのが特徴で、干潟ではアサリを中心とした漁業が行われています。

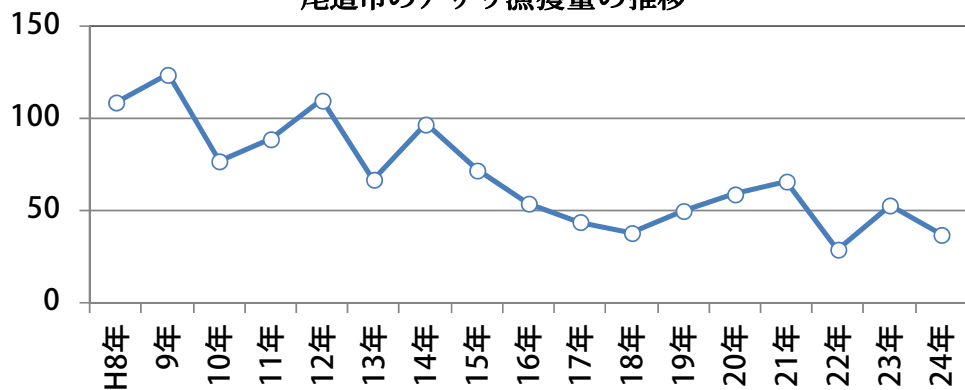


浦島地区のアサリ

浦島の海で育ったアサリは、味が濃厚で、はじけんばかりの身の大きさになるのが最大の特徴です。しかし、現在、チヌやエイによる食害、尾道市のアサリの産地「山波の州」における生産量の減少による稚貝供給量の低下によって、アサリの資源量が減少しています。

そこで、アサリを育む豊饒な干潟の再生を目指した「広島県東部アサリ協議会（浦島地区）」を平成25年度に設立しました。

尾道市のアサリ漁獲量の推移



広島県東部アサリ協議会（浦島地区）について

設立：平成25年6月21日
 目的：広島県東部海域におけるアサリの再生と水産振興の安定に寄与する
 体制：漁業者、浦島漁協、尾三森林組合、NPO 瀬戸内里海振興会（283名）

活動：活動項目及び26年度スケジュールは、下記のとおり。

	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
耕うん		○					○	---	---	---	---
被覆網設置		○					○	---	---	---	---
稚貝沈着促進							○	---	---	---	---
稚貝の放流										---	---
ツメタガイ等除去			○				○				
漂着ゴミ除去											
モニタリング	○				○	○				○	
環境教育					○	○					

アサリを育む豊饒な干潟を目指して

アサリを育む干潟の再生を目指すために、被覆網を中心とした活動を行っています。被覆網を張らないと、沈着した稚貝や移植した貝がチヌやエイによって食べられてしまいます。

被覆網を張る前には、必ず耕うんを行います。耕うんの主な目的は、干潟の地盤を柔らかくして、沈着した稚貝や移植した貝がすぐに潜れる環境をつくることにあります。

地区の干潟には二枚貝を食べるツメタガイとサキグロツメタガイが生息しています。そこで、前者は初夏、後者は秋に卵塊（砂茶碗）を中心に除去活動を行っています。また、被覆網は、ツメタガイが侵入しないように外縁の網すそを砂の中に埋め込む工夫をしています。



取り組みの成果と今後の課題

活動区域の9つの干潟のうち、被覆網等の保全活動を6つの干潟で行った結果、3つの干潟でアサリが増加しました。また、そこには大粒から小粒のアサリが生息しており、稚貝の沈着やその後の生残・成長の様子がうかがえました。こうした干潟では、被覆網を張ることで一定量のアサリを効果的に再生・増やすことができると考えられました。

一方で、被覆網だけではアサリが再生しない干潟もありました。この原因は、波浪による干潟の砂の移動や場所の選定に課題があると考えられました。こうした干潟では、今後、土嚢やあぜ板による砂の移動防止施設の設置や、袋網を活用した稚貝の沈着状況確認調査を実施していきたいと考えています。

効果が認められた干潟（高尾東）



効果が認められない干潟（戸崎）

